

地域共創タウンミーティング in 綾川町 実施報告書

1 開催概要

日時：令和7年9月30日（火）10時～11時30分

場所：綾上農村環境改善センター 農事研究室

目的：地域住民の方々との意見交換を通じて、地域における課題を知り、大学・地域共創プラットフォーム香川の今後の取り組みに生かすことを目的として実施する。

参加者：綾川町住民8名、綾川町職員3名、香川県職員1名、県内大学等教職員5名

2 タウンミーティング内容

綾川町旧綾上町地域での「末永く住み続けられる、持続可能な地域」について

(1)地区活性化協議会のこれからの担い手の確保と育成と合意形成の方法について

- ・若者世代は生活や家庭で手一杯で参加が難しいため、60歳以上の定年退職者をターゲットにしているが参加者は少ない。リタイア直前から声掛けを行うことが重要だと感じている。
- ・部会活動に参加することで少額の報酬が得られる仕組みを導入し、参加することへの動機づけを図っている。
- ・消防団、PTA、若竹会など既存組織との連携を通じて若手や中堅層の参加を促進する。
- ・地域外の出身者やリターン者も対象に含め、関係人口の拡大を図る。行政区域や地区の枠組みにとらわれず、地区活性化協議会の活動に巻き込んでいければ良いと思う。
- ・担い手の育成については、「育成してから活動する」のではなく、「一緒に活動しながら育成していく」しかないと考えている。
- ・情報共有について、決まった時間に一か所に集まる会議形式だけではなく、LINEやオンライン会議など柔軟な対応が必要。
- ・若者の価値観は変化しており、私生活の充実を重視しながらも、自分の活躍を認められたいという承認欲求も持っており、その承認の場は会社に限らず、インターネットや地域活動など多様化している。地区活性化協議会の活動が若者の承認の場となるよう工夫が必要。

(2)地域住民との関係構築・情報発信について

- ・「楽しいこと」「食べること」を中心に据えたイベント（夏祭り、米粉料理など）で会員外の住民も巻き込み、新規会員獲得につなげている。
- ・地区活性化協議会への参加により財源や事業の自由度が下がることへの懸念から、参加しない既存組織もあるが、今後地区活性化協議会が受け皿になる可能性がある。
- ・地区活性化協議会の活動に小学校PTAを参加してもらい、農業体験を通じて子どもと保護者を巻き込んでいる。
- ・地域の伝統文化である獅子舞や念仏踊りのデモンストレーションを通じて若者に活動を知ってもらい、参加へのきっかけづくりを図っている。
- ・各地区活性化協議会の全員が集まり、一年間実施したことについて、発表する場があればよい。
- ・各地区での取組状況について、町長も参加して地域間の情報共有や横展開が重要である。